



IBM Systems - iSeries

ハードウェアのインストールおよび使用
コントロール・パネル

バージョン 5 リリース 4





IBM Systems - iSeries

**ハードウェアのインストールおよび使用
コントロール・パネル**

バージョン 5 リリース 4

ご注意！

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、41 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

- | 本書は、IBM i5/OS (製品番号 5722-SS1) のバージョン 5、リリース 4、モディフィケーション 0 に適用されます。
- | また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM Systems - iSeries
Hardware installation and use
Control Panel
Version 5 Release 4

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2006.2

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2004, 2006. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2006

目次

コントロール・パネル	1	拡張コントロール・パネル機能	23
印刷可能な PDF	1	低レベルデバッグ・パネル機能 57 から 70.	25
コントロール・パネルの概念	2	リモート・コントロール・パネル API を使用する	26
コントロール・パネルのタイプ	2	システム電源およびテスト API.	27
コントロール・パネル機能.	5	IPL に関連した API	28
コントロール・パネルのボタン、ライト、および標 識	9	その他のシステム機能 API	33
コントロール・パネルをセットアップする	11	システム状況を尋ねる API	35
コントロール・パネル機能にアクセスする	12	付録. 特記事項.	41
キースティックのあるコントロール・パネル	13	プログラミング・インターフェース情報.	42
コントロール・パネル機能に関する指示と説明	14	商標	42
通常のコントロール・パネル機能	15	使用条件	43

コントロール・パネル

コントロール・パネルは iSeries™ サーバーの初期インターフェースです。コントロール・パネルから、次のようなシステム機能を実行することができます。

- システムの電源をオン/オフする
- 初期プログラム・ロード (IPL) を実行する
- 属性またはエラー・コードを表示、あるいは取得して、問題を分析する
- プロセッサ・アクティビティを判別する

重要:

- 区画に分割されたシステムの場合には、1 次区画だけがコントロール・パネルにアクセスできます。すべての 2 次区画は、この 1 次区画を経由してリモート・コントロール・パネルを使用します。
- このトピックにある情報は、IBM® 270 および 8xx モデル・サーバーにのみ当てはまります。別のモデルのサーバーをご使用の場合、詳しくは、IBM Systems Hardware Information Center を参照してください。

以下のトピックには、仮想コントロール・パネルまたはリモート・コントロール・パネルをセットアップするための情報、およびコントロール・パネル機能にアクセスし、また API を使用してユーザー作成のプログラムでリモート・コントロール・パネルを操作するための情報が提供されています。

関連情報

IBM Systems Hardware Information Center

印刷可能な PDF

この情報の PDF を表示および印刷する方法を説明します。

この資料の PDF 版を表示またはダウンロードするには、『コントロール・パネル』を選択します。

以下の関連トピックを表示またはダウンロードできます。

- 『システム操作の基本』には、次のトピックが含まれています。
 - iSeries の基本操作
 - iSeries の始動と停止
 - OS/400® の概念
 - システムの問題の分析と報告

PDF ファイルの保管

表示または印刷のために PDF をワークステーションに保管するには、以下のようになります。

1. ブラウザーで PDF を右マウス・ボタン・クリックする (上部のリンクを右マウス・ボタン・クリック)。
2. PDF をローカルに保存するオプションをクリックする。
3. PDF を保存したいディレクトリーに進む。
4. 「保存」をクリックする。

Adobe Reader のダウンロード

- これらの PDF を表示または印刷するには、システムに Adobe Reader をインストールすることが必要です。
- このアプリケーションは、Adobe Web サイト (www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html) から
- 無償でダウンロードできます。

コントロール・パネルの概念

この情報は、コントロール・パネル・オプションそれぞれの違いについて説明します。また、コントロール・パネルで実行できる機能の詳細についても説明します。

以下の情報では、仮想コントロール・パネル、リモート・コントロール・パネル、および物理コントロール・パネルの違いについて説明します。また、コントロール・パネルで実行できる機能の詳細についても説明します。

コントロール・パネルのタイプ

仮想コントロール・パネル、リモート・コントロール・パネル、および物理コントロール・パネルについて比較・対比して説明します。

物理コントロール・パネル、リモート・コントロール・パネル、および仮想コントロール・パネルのいずれを使用しても、同じ機能のほぼすべてを実行することができます。リモート・コントロール・パネルおよび仮想コントロール・パネルは、PC からコントロール・パネルの機能を実行する手段を提供します。

以下のトピックには、コントロール・パネル・オプションに関する詳細情報があります。

物理コントロール・パネル

物理コントロール・パネルは iSeries サーバーの初期インターフェースです。物理コントロール・パネルを使用して、IPL、電源オン、および電源オフといった機能を実行することができます。コントロール・パネルの機能は、状況 (IPL 速度など) を表示するといったものから、サービス技術員以外にはアクセスする必要のない低レベルのサービス機能まで、さまざまな複雑さのものがあります。

注: システムに複数の区画がある場合、「保留」に構成されている 2 次区画は電源オンにならない場合があります。区画に分割されたシステムの電源をオンおよびオフにするには、論理区画に関するトピックの『論理区画を持つシステムの再始動および電源遮断 (Restart and power down a system with logical partitions)』を参照してください。

物理コントロール・パネルの使用について詳しくは、『コントロール・パネル機能にアクセスする』を参照してください。物理コントロール・パネルのインターフェースについての説明は、『コントロール・パネルのボタン、ライト、および標識』を参照してください。

関連概念

9 ページの『コントロール・パネルのボタン、ライト、および標識』
各タイプのコントロール・パネルに対応するインターフェースについて説明します。

関連タスク

論理区画のあるシステムの再始動および電源遮断

12 ページの『コントロール・パネル機能にアクセスする』
この情報には、コントロール・パネル機能にアクセスする方法を説明したステップが提供されています。

リモート・コントロール・パネル

リモート・コントロール・パネルは、コントロール・パネル機能を PC から使用するための手段です。リモート・コントロール・パネルのグラフィカル・ユーザー・インターフェースは、物理コントロール・パネルによく似ています。

リモート・コントロール・パネルの特徴は以下のとおりです。

- リモート・コントロール・パネルはオペレーション・コンソールを使用してインストールします。
- リモート・コントロール・パネルのインターフェースを使用して、サーバーの再始動、電源オフを行うことができます。また、リモート・コントロール・パネルは、サーバーにケーブルで直接接続されている場合、サーバーの電源をオンにすることもできます。LAN 経由で接続されている場合、サーバーの電源をオンにすることはできません。リモート・コントロール・パネルを使用すると、物理コントロール・パネルとほぼ同じ機能を実行することができます。
- リモート・コントロール・パネルは、使用するサーバーのモデルにより、シリアル・ポートまたはパラレル・ポートを使用した直接接続で使用することができます。また、リモート・コントロール・パネルは LAN 経由、またはモデム接続によってリモートで使用することもできます。
- リモート・コントロール・パネル API をユーザー作成のプログラムで使用して、リモート・コントロール・パネルの制御を自動化することができます。
- サーバーがキースティックを使用する場合、キースティックが挿入されているかどうかにより、**モード・ボタン**が物理コントロール・パネルと同じ機能を処理します。

リモート・コントロール・パネルのセットアップについては、『コントロール・パネルをセットアップする』を参照してください。リモート・コントロール・パネルの使用については、『コントロール・パネル機能にアクセスする』を参照してください。リモート・コントロール・パネルのインターフェースについての説明は、『コントロール・パネルのボタン、ライト、および標識』を参照してください。

関連概念

11 ページの『コントロール・パネルをセットアップする』

これらの指示は、リモート・コントロール・パネルおよび仮想コントロール・パネルを稼働させる際に使用できる詳細情報を提供しています。

9 ページの『コントロール・パネルのボタン、ライト、および標識』

各タイプのコントロール・パネルに対応するインターフェースについて説明します。

関連タスク

12 ページの『コントロール・パネル機能にアクセスする』

この情報には、コントロール・パネル機能にアクセスする方法を説明したステップが提供されていません。

仮想コントロール・パネル

仮想コントロール・パネルは、並列ケーブルを使用したリモート・コントロール・パネルの代替となるものです。リモート・コントロール・パネルと同じように、仮想コントロール・パネルもコントロール・パネル機能を PC から使用するための手段です。

- 1 仮想コントロール・パネルのグラフィカル・ユーザー・インターフェースはリモート・コントロール・パネルと同一です。また、仮想コントロール・パネルはリモート・コントロール・パネルとほぼ同じ機能を実行することができます。サーバーがキースティックを使用する場合、キースティックが挿入されているかどうかにより、**モード・ボタン**が物理コントロール・パネルと同じ機能を処理します。

リモート・コントロール・パネルと仮想コントロール・パネルの最も大きな違いは、仮想コントロール・パネルではサーバーの電源をオンにできないという点です。その代替として、システムの電源を後でオンにす

必要がある場合は、**アテンション・キー**を押すことにより、操作援助機能の IPL スケジューリング機能を使用することができます。GO POWER コマンドを使用し、オプション 2 (電源オンおよび電源オフ・スケジュールの変更) を選択することもできます。

仮想コントロール・パネルに関する考慮事項

仮想コントロール・パネルを使用する場合、以下の考慮事項に注意する必要があります。

- 仮想コントロール・パネルはシリアル・コンソール・ケーブルを使用してオペレーション・コンソールからサーバーに直接接続しなければなりません。
- 仮想コントロール・パネルはオペレーション・コンソールが接続されている時のみ使用できます。
- ダイアルアップ接続で、リモートから仮想コントロール・パネルを使用することはできません。
- 仮想コントロール・パネルのインストールには前提条件があり、たとえばサーバーには PTF、クライアントへには Service Pack が必要になります。
- PC にリモート・コントロール・パネル用の並列ケーブル接続がある場合は、それを除去してからでなければ仮想コントロール・パネルをインストールして使用することはできません。
- それぞれの仮想コントロール・パネル接続ごとに、固有の保守ツールの装置プロファイルがなければなりません。
- 既存のネットワーク名を使用することはできません。
- 複数の仮想コントロール・パネルおよびリモート・コントロール・パネルが同時にアクティブになり得ます。
- 仮想コントロール・パネルで提供されるモード機能を使用するためには、接続を認証するのに使用される保守ツールのユーザー ID に、区画リモート・パネル・キーの特権がなければなりません。保守ツールの service ユーザー ID にこの特権があるかどうかを検査するには、『SST の使用による保守ツール・ユーザー ID の機能特権の変更』を参照してください。

仮想コントロール・パネルかリモート・コントロール・パネルを選択するには

次の表に、仮想コントロール・パネルに推奨されるサーバー・モデル、およびリモート・コントロール・パネルに推奨されるサーバー・モデルを示します。

仮想コントロール・パネル					リモート・コントロール・パネル
270	800	810820	825830840	870890	1702506xx7xxSxx

仮想コントロール・パネルの前提条件、セットアップ手順、および構成の説明などに関する情報は、iSeries アクセス Web サイトを参照してください。

- 仮想コントロール・パネルの使用について詳しくは、『コントロール・パネル機能にアクセスする』を参照してください。仮想コントロール・パネルのインターフェースについての説明は、『コントロール・パネルのボタン、ライト、および標識』を参照してください。

関連概念

9 ページの『コントロール・パネルのボタン、ライト、および標識』
各タイプのコントロール・パネルに対応するインターフェースについて説明します。

関連タスク

SST の使用による保守ツール・ユーザー ID の機能特権の変更

12 ページの『コントロール・パネル機能にアクセスする』

この情報には、コントロール・パネル機能にアクセスする方法を説明したステップが提供されていません。

関連情報

iSeries オペレーション・コンソール (英語)

コントロール・パネル機能

コントロール・パネルの各機能と、どのタイプのコントロール・パネルがサポートしているかを示す表を記載しています。

リモート・コントロール・パネル、仮想コントロール・パネル、および物理コントロール・パネルの間に機能的な差はほとんどありません。主な違いは、物理コントロール・パネルとリモート・コントロール・パネルは、サーバーにケーブルで直接接続されている場合に、iSeries サーバーの電源をオンにできるという点です。仮想コントロール・パネルと LAN 経由で接続されているリモート・コントロール・パネルは、サーバーの電源をオンにすることはできません。

次の表では、すべてのコントロール・パネルの機能を説明し、それらを仮想コントロール・パネルおよびリモート・コントロール・パネルがサポートしているかどうかを示します。

次の表では、コントロール・パネル機能のコードおよび説明をリストしています。

注:

- 一部のコントロール・パネル機能は、すべてのシステム・タイプで使用できるわけではありません。
- x は任意の数字 (0 から 9)、英字 (A から F)、またはブランクにすることができます。
- すでに機能を選択している場合は、選択した機能を下記の表から見つけて、正しい機能を完了したかどうか確認してください。
- 「機能/データ」表示パネルを変更できない場合や、選択した機能を完了できない場合は、サービス提供元に連絡してください。

コントロール・パネル (32 文字) 機能コード

機能コード	リモート・コントロール・パネル・コード	仮想コントロール・パネルがサポートしているか	機能の説明
01	01	はい	1. 現在選択されている IPL タイプ (および一部のシステム・タイプでは、論理キー・モード) を表示します。 2. 次回の IPL のために現在選択されている IPL 速度の指定変更を表示します。
02	02	はい	IPL タイプ、論理キー・モード、および IPL 速度を選択します。

機能コード	リモート・コントロール・パネル・コード	仮想コントロール・パネルがサポートしているか	機能の説明
03	03	はい	IPL を開始してシステムのロードを行います。 IPL は、選択された IPL オプションを使用します。
04	04	はい	ランプ・テスト。すべての画面および標識がオンになります。
05	05	いいえ	システム電源制御ネットワーク (SPCN) のシステム参照コード (SRC)。コントロール・パネルに SRC を表示します。
07	該当せず	該当せず	SPCN サービス機能を実行できるようにします。
08	08	はい	高速電源オフ。高速電源オフを実行する場合には、基本システム操作に関するトピックの『システムを停止する』を参照してください。
09 から 10	該当せず	該当せず	予約済み。
11 から 19	11 から 19	はい	システム参照コード (SRC)。コントロール・パネルに SRC を表示します。
20	20	はい	マシン・タイプ、モデル、プロセッサ・フィーチャー・コード、プロセッサ・クラス標識、および IPL パス記述を表示します。
21	21	はい	「専用保守ツール (DST) の使用 (Use Dedicated Service Tool (DST))」画面がシステム・コンソールに表示されます。 DST を終了するには、「オペレーティング・システム表示の再開 (Resume operating system display)」オプションを選択します。
22	22	はい	システムの主記憶域ダンプを強制的に行います。
23	該当せず	該当せず	予約済み。
24	該当せず	該当せず	予約済み。

機能コード	リモート・コントロール・パネル・コード	仮想コントロール・パネルがサポートしているか	機能の説明
25	25	はい	サービス・スイッチ 1 および 2 を使用して、機能 50 から 70 を使用可能または使用不可にします。
26	26	はい	サービス・スイッチ 1 および 2 を使用して、機能 50 から 70 を使用可能または使用不可にします。
27 から 32	該当せず	該当せず	予約済み。
33	33	はい	SPCN アドレッシングを再オーダーします。
34	34	はい	(MSD) IPL を再試行します。
35 から 49	該当せず	該当せず	予約済み。
50	該当せず	該当せず	システム処理装置を停止します。
51	該当せず	該当せず	システム処理装置の状況に、次の値を表示します。 B0 レジスターの内容、次の命令アドレス (NIA)、および現行のタスク・ディスパッチング・エレメント (TDE) の内容。
52	該当せず	該当せず	システム処理装置を開始します。
53	53	いいえ	断続的に故障しているプロセッサを構成解除します (GARD の繰り返し機能)
54 から 56	該当せず	該当せず	予約済み。
57	該当せず	該当せず	システム・データのエリア・アドレスを表示します。
58	該当せず	該当せず	機能 62 表示用の基本アドレスの 1 番目の文字を設定します。
59	該当せず	該当せず	機能 62 表示用の基本アドレスの 2 番目の文字を設定します。
60	該当せず	該当せず	機能 62 表示用の基本アドレスの 3 番目の文字を設定します。
61	該当せず	該当せず	機能 62 表示用の基本アドレスの 4 番目の文字を設定します。

機能コード	リモート・コントロール・パネル・コード	仮想コントロール・パネルがサポートしているか	機能の説明
62	該当せず	該当せず	サービス・プロセッサ記憶域を表示します。
63	該当せず	該当せず	システム状況 SRC トレース。
64	該当せず	該当せず	サービス・プロセッサ診断状況 SRC トレース。
65	65	はい	リモート・サービスを非活性化します。
66	66	はい	リモート・サービスを活性化します。
67	67	はい	ディスク装置 IOP リセット/再ロードが特定のディスク装置 SRC によってのみ使用可能になります。
68	68	はい	並行保守電源ドメインを電源オフします。
69	69	はい	並行保守電源ドメインを電源オンします。
70	70	いいえ	サービス・プロセッサ制御記憶機構のダンプ。
電源ボタン	グラフィカル・インターフェースの電源ボタン -- サーバーを電源オンおよび電源オフするのに使用します。(LAN 接続のリモート・コントロール・パネルではサーバーを電源オンすることはできません。)	グラフィカル・インターフェースの電源ボタン -- サーバーの電源オフのみに使用します。	OFF = 遅延電源オフ ON = 即時電源オン (時刻指定電源オンにすることもできます)
キースティック	注を参照してください。	注を参照してください。	IPL キーロック - 手動、自動、通常、保護
アテンション・ライト	グラフィカル・アテンション・ライト	はい	アテンションの状態を示す LED
電源表示ライト	グラフィカル・インターフェースの電源表示ライト	グラフィカル・インターフェースの電源表示ライト	電源がオンになり、完全に作動可能になると点灯します。
<p>注: リモート・コントロール・パネルおよび仮想コントロール・パネルは、キースティックの存在を認識します。サーバーでキースティックを使用する場合、キースティックが挿入されている場合、モード・ボタンが物理コントロール・パネルと同じ機能を持つかどうかは、キースティックが挿入されているかどうかによります。LAN 接続のリモート・コントロール・パネルの場合、モード・ボタンを使用するには特殊権限が必要です。</p>			

上の表で機能コードが見つからない場合、この情報が作成された時点で、追加のフィーチャーまたは装置用のカスタマー・サポートがまだ利用できなかった可能性があります。コントロール・パネルに表示されている機能コードについての補足的な装置機能コード情報を探してください。

機能について詳しくは、『コントロール・パネル機能に関する指示と説明』を参照してください。

関連概念

14 ページの『コントロール・パネル機能に関する指示と説明』

この情報では、各コントロール・パネル機能の説明、各機能の使用法と手順、および各機能をいつ使用するかについて説明されています。

関連資料

システムの停止 (Stop the system)

コントロール・パネルのボタン、ライト、および標識

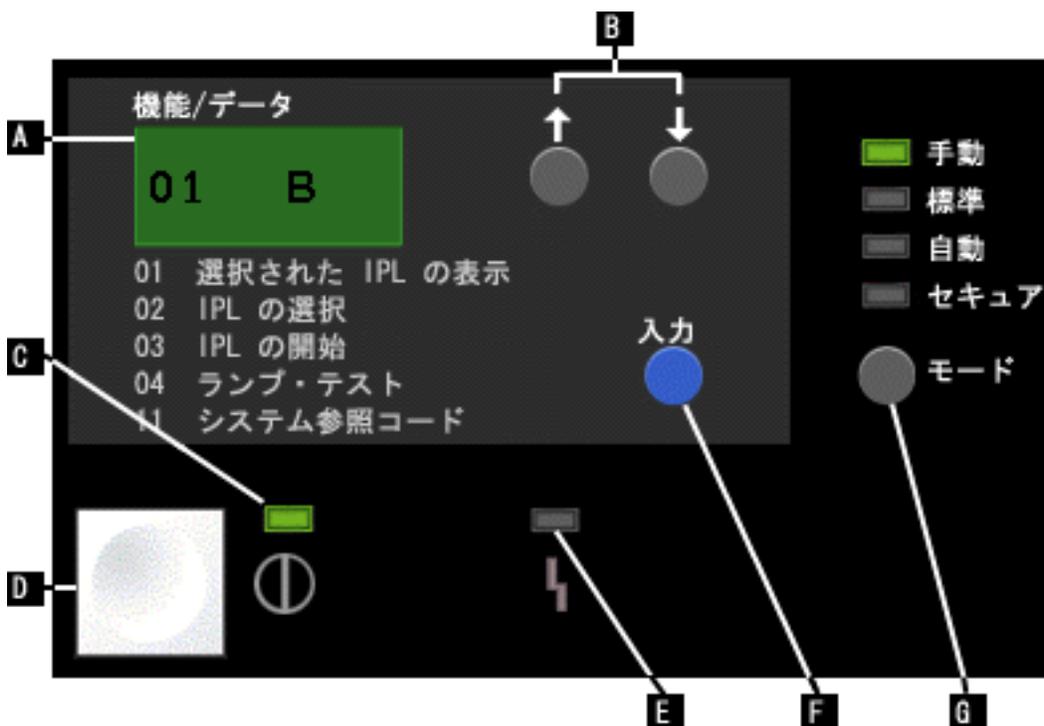
各タイプのコントロール・パネルに対応するインターフェースについて説明します。

このトピックでは、コントロール・パネルのボタン、ライト、および標識について説明します。また、仮想コントロール・パネルおよびリモート・コントロール・パネルのインターフェースについても説明します。仮想コントロール・パネルとリモート・コントロール・パネルのインターフェースは同一です。

次の図に、以下を示します。

- ・ リモート・コントロール・パネル、または仮想コントロール・パネル
- ・ キースティックのないコントロール・パネル
- ・ キースティックのあるコントロール・パネル

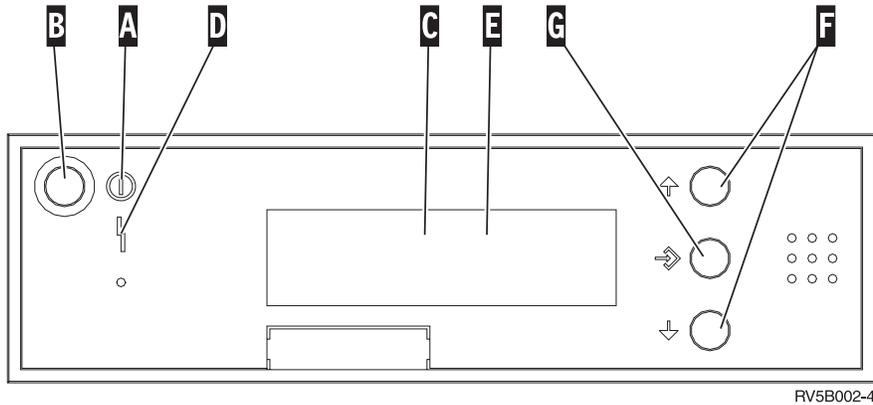
リモート・コントロール・パネル、および仮想コントロール・パネル



(A)	「機能/データ」表示パネル
(B)	上下選択ボタン
(C)	電源オン標識
(D)	電源ボタン
(E)	システム・アテンション・ライト

(F)	「入力 (Enter)」 ボタン
(G)	「モード (Mode)」 ボタン

キースティックのない物理コントロール・パネル

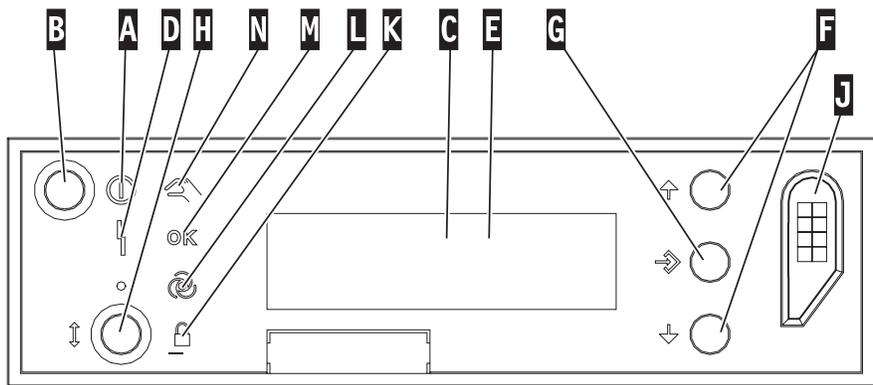


RV5B002-4

(A)	「電源オン」 ライト <ul style="list-style-type: none"> ライトの明滅は、装置への電力供給中を示しています。 ライトの点灯は、装置が稼働中であることを示します。
(B)	電源ボタン
(C)	プロセッサ・アクティビティ
(D)	システム・アテンション
(E)	「機能/データ」 表示パネル
(F)	上下選択ボタン
(G)	「機能開始 (Enter)」 ボタン

キースティックのある物理コントロール・パネル

キースティックにより、オペレーターは、コントロール・パネルの機能についてのセキュリティー管理や、コントロール・パネルからアクセス可能なデータの制御を行うことができます。キースティックで電子キーロックを行うと、「モード」 ボタンがアクティブになります。



RZACD507-1

(A)	「電源オン」ライト <ul style="list-style-type: none"> ライトの明滅は、装置への電力供給中を示しています。 ライトの点灯は、装置が稼働中であることを示します。
(B)	電源ボタン
(C)	プロセッサ・アクティビティ
(D)	システム・アテンション
(E)	「機能/データ」表示パネル
(F)	上下選択ボタン
(G)	「機能開始 (Enter)」ボタン
(H)	「モード (Mode)」ボタン
(J)	電子キースティック・スロット
(K)	保護
(L)	自動
(M)	通常
(N)	手動

関連概念

2 ページの『物理コントロール・パネル』

物理コントロール・パネルは iSeries サーバーの初期インターフェースです。物理コントロール・パネルを使用して、IPL、電源オン、および電源オフといった機能を実行することができます。コントロール・パネルの機能は、状況 (IPL 速度など) を表示するといったものから、サービス技術員以外はアクセスする必要のない低レベルのサービス機能まで、さまざまな複雑さのものがあります。

3 ページの『リモート・コントロール・パネル』

リモート・コントロール・パネルは、コントロール・パネル機能を PC から使用するための手段です。リモート・コントロール・パネルのグラフィカル・ユーザー・インターフェースは、物理コントロール・パネルによく似ています。

3 ページの『仮想コントロール・パネル』

仮想コントロール・パネルは、並列ケーブルを使用したリモート・コントロール・パネルの代替となるものです。リモート・コントロール・パネルと同じように、仮想コントロール・パネルもコントロール・パネル機能を PC から使用するための手段です。

関連タスク

12 ページの『コントロール・パネル機能にアクセスする』

この情報には、コントロール・パネル機能にアクセスする方法を説明したステップが提供されています。

コントロール・パネルをセットアップする

これらの指示は、リモート・コントロール・パネルおよび仮想コントロール・パネルを稼働させる際に使用できる詳細情報を提供しています。

リモート・コントロール・パネルおよび仮想コントロール・パネルはどちらも、オペレーション・コンソール構成によってセットアップします。コントロール・パネル機能を使用するには、オペレーション・コンソール

ールをインストールし、リモート・コントロール・パネルまたは仮想コントロール・パネルを構成する必要があります。具体的なセットアップ手順は以下のとおりです。

リモート・コントロール・パネルをセットアップする

リモート・コントロール・パネルをセットアップするには、オペレーション・コンソールをインストールする必要があります。構成ウィザードで、リモート・コントロール・パネル機能を選択するオプションが提供されます。

リモート・コントロール・パネル構成の構成に関する考慮事項

- 作成した構成をサポートするには、専用のリモート・コントロール・パネル・ケーブルが必要になります。具体的な要件については、『オペレーション・コンソール・ケーブルのインストール』を参照してください。
- ダイアルアップ・サポートによるローカル・コンソールでは、リモート・コントロール・パネル機能をサポートしていません。ダイアルアップ・サポートによるリモート・コンソールでは、接続先のローカル・コンソールにケーブルがインストールおよび構成されている場合にのみ、リモート・コントロール・パネル機能がサポートされます。

仮想コントロール・パネルをセットアップする

iSeries アクセス Web サイトでは、仮想コントロール・パネルのセットアップに関する特定のセットアップ手順が説明されています。仮想コントロール・パネルを機能させるには、サーバーに直接接続されたローカル・コンソールを構成しておかなければなりません。サーバー構成に直接接続されたローカル・コンソールをセットアップするには、オペレーション・コンソールでセットアップ手順に従う必要があります。仮想コントロール・パネル機能の使用にはいくつかの制限および制約事項があるので、インストールの指示でそれらを必ず確認してください。

- 1 リモート・コントロール・パネルまたは仮想コントロール・パネルのトラブルシューティングについては、
- 1 『オペレーション・コンソール接続に関するトラブルシューティング』を参照してください。

関連概念

3 ページの『リモート・コントロール・パネル』

リモート・コントロール・パネルは、コントロール・パネル機能を PC から使用するための手段です。リモート・コントロール・パネルのグラフィカル・ユーザー・インターフェースは、物理コントロール・パネルによく似ています。

オペレーション・コンソール

関連タスク

オペレーション・コンソール・ケーブルの取り付け (Installing Operations Console cables)

関連情報

iSeries オペレーション・コンソール (英語)

オペレーション・コンソール接続に関するトラブルシューティング

コントロール・パネル機能にアクセスする

この情報には、コントロール・パネル機能にアクセスする方法を説明したステップが提供されています。

以下の指示は、物理コントロール・パネル、リモート・コントロール・パネル、または仮想コントロール・パネルに適用されます。仮想コントロール・パネルまたはリモート・コントロール・パネルを使用している場合は、指示で「押す」となっているところではボタンをクリックしてください。コントロール・パネルを使用するには、以下のステップを実行してください。

1. 物理コントロール・パネルにキースティックがある場合、キースティックを挿入し、「モード」ボタンを押して「手動」モードを選択します。このステップは、リモート・コントロール・パネルまたは仮想コントロール・パネルを使用している場合でも行う必要があります。
2. 機能番号を選択するには、目的の機能番号が表示されるまで、コントロール・パネルの上ボタン (Λ) または下ボタン (V) を押します (またはクリックします)。
3. 「機能開始 (Enter)」ボタンを押します。

関連概念

2 ページの『物理コントロール・パネル』

物理コントロール・パネルは iSeries サーバーの初期インターフェースです。物理コントロール・パネルを使用して、IPL、電源オン、および電源オフといった機能を実行することができます。コントロール・パネルの機能は、状況 (IPL 速度など) を表示するといったものから、サービス技術員以外はアクセスする必要のない低レベルのサービス機能まで、さまざまな複雑さのものがあります。

3 ページの『リモート・コントロール・パネル』

リモート・コントロール・パネルは、コントロール・パネル機能を PC から使用するための手段です。リモート・コントロール・パネルのグラフィカル・ユーザー・インターフェースは、物理コントロール・パネルによく似ています。

3 ページの『仮想コントロール・パネル』

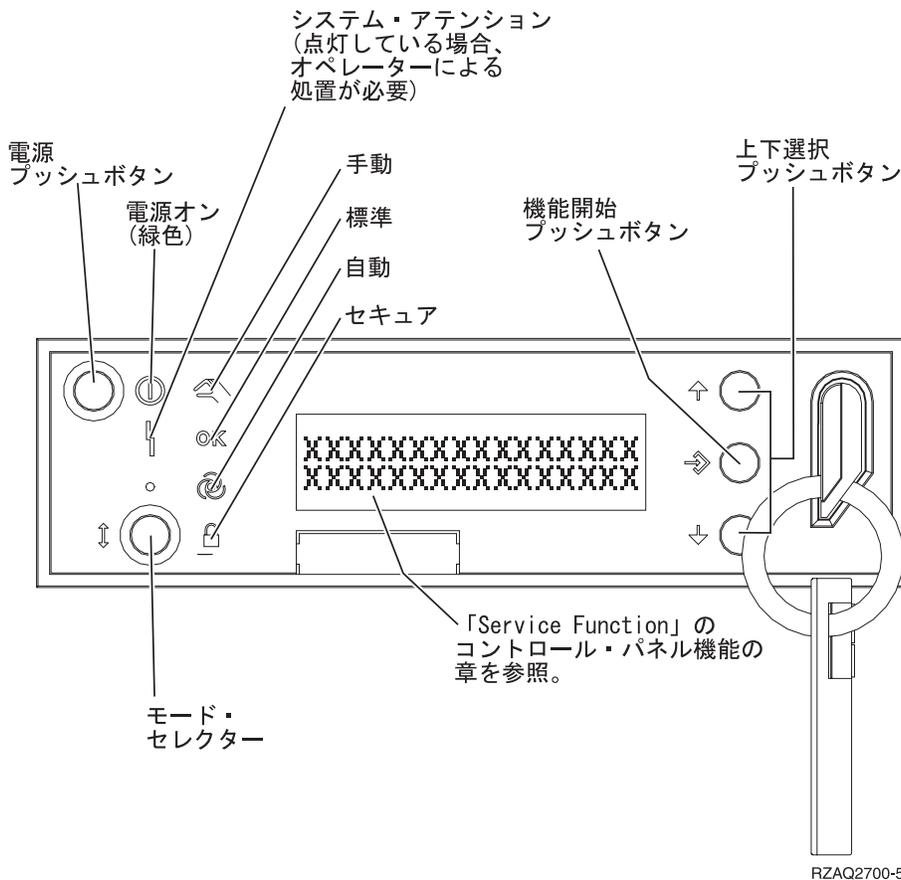
仮想コントロール・パネルは、並列ケーブルを使用したリモート・コントロール・パネルの代替となるものです。リモート・コントロール・パネルと同じように、仮想コントロール・パネルもコントロール・パネル機能を PC から使用するための手段です。

9 ページの『コントロール・パネルのボタン、ライト、および標識』

各タイプのコントロール・パネルに対応するインターフェースについて説明します。

キースティックのあるコントロール・パネル

注: 『コントロール・パネルのボタン、ライト、および標識』に、仮想コントロール・パネルおよびリモート・コントロール・パネルのインターフェースについての説明があります。



RZAQ2700-5

この図では、コントロール・パネルの以下の項目を示しています。

- 電源オン標識
- 電源プッシュボタン
- システム・アテンション・ライト
- 「機能/データ」表示パネル
- 上下選択ボタン
- 機能開始プッシュボタン
- モード・セレクター
- 電子キースティック・スロット

コントロール・パネル機能に関する指示と説明

この情報では、各コントロール・パネル機能の説明、各機能の使用法と手順、および各機能をいつ使用するかについて説明されています。

このトピックでは、すべてのコントロール・パネルの機能とその使用法の詳細を説明します。リモート・コントロール・パネルおよび仮想コントロール・パネルは、これらの機能のほとんどを実行することができます。物理コントロール・パネルではすべての機能が実行できます。

コントロール・パネル機能は以下の 3 つのカテゴリーに分けて考えることができます。

通常のコントロール・パネル機能

通常のコントロール・パネル機能は、最も頻繁に実行される機能です。これには、IPL 速度の表示や、サーバーに IPL の実行を強制するなどの機能が含まれます。また、DST の強制や主記憶域ダンプの強制などの機能も含まれます。これらの機能は 01 から 49 までです。

拡張コントロール・パネル機能

拡張コントロール・パネル機能は、実行される頻度が比較的少ない機能です。これらの機能はサポート・サービス技術員のみが実行しなければならない機能です。拡張機能は 50 から 70 までです。

低レベルデバッグ・パネル機能

これらは機能 57 から 70 までのもので、サポート・サービス技術員のみが実行しなければならない機能です。

注: 以下のトピックにある例は、4 ワード (32 文字) の表示装置のあるコントロール・パネルを示しています。1 ワード (8 文字) の表示装置のあるコントロール・パネルでは、各機能の先頭のワード (8 文字) のみが表示されます。

以下のトピックに、コントロール・パネル機能の使用に関する詳細情報および指示があります。

関連タスク

5 ページの『コントロール・パネル機能』

コントロール・パネルの各機能と、どのタイプのコントロール・パネルがサポートしているかを示す表を記載しています。

通常のコントロール・パネル機能

以下は、機能 01 から 49 の使用に関する説明です。機能 21 から 49 は手動モードを選択した場合に使用可能です。

機能 01 または機能 02 に関する説明は、ご使用のサーバーでキースティックを使用するかどうかによって異なります。また、機能 01 および 02 に関する指示は、キースティックのあるサーバーとキースティックのないサーバーの間では入れ替わります。

コントロール・パネルの機能 01 および 02 をアクティブにする方法を判別するには、以下のようになさってください。

1. コントロール・パネルには電子キーロック (キースティック) がありますか?

はい	次のステップに進みます。
いいえ	システムには IPL キー・モード (M または N のみ) が表示されません。「自動」および「保護」の IPL キー・モードはサポートされません。キースティックのないシステムの場合の機能 01 および 02 の手順に従ってください。

2. キースティックを挿入します。

「モード選択」ボタンを押して IPL モードを選択します。キースティックのあるシステムの場合の機能 01 および 02 の手順に従ってください。

注: 表示される機能は、コントロール・パネルの「機能開始」を押すまではアクティブになりません。

機能番号を選択するには、コントロール・パネルの上 (▲)または下 (▼) ボタンを押します。機能をアクティブにするには、必要な機能番号が表示されている間に、コントロール・パネルの「機能開始」を押してください。

機能 01 - 選択された IPL タイプ、および IPL 速度を表示する (キースティックのあるシステム)

この機能を使用すると、次回の IPL 用に選択された IPL タイプ、および速度を表示することができます。

1. IPL タイプ (A、B、C、または D) の表示
2. IPL 速度 (F、S、SE、V=F、または V=S) の表示

機能 01 が選択されると、現在選択されている IPL タイプと IPL 速度の値が表示されます (下線 () はそれぞれ 1 文字を表します)。

次の表は、キースティックがある場合の機能 01 の例を示しています。

キースティックがあるシステムでの機能 01

機能/データ	処置または説明
0 1 _	「上」または「下」ボタンを使用して、機能 01 にスクロールします。
0 1 _ _ A _ _ _ _ V = F _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	有効な IPL タイプは A、B、C、および D です。 有効な IPL 速度の表示は F、S、SE、V=F、または V=S です。
0 1 _	「上」または「下」ボタンを使用して、コントロール・パネル機能の相互間でスクロールします。

機能 01 - 選択された IPL タイプ、論理キー・モード、および IPL 速度を表示する (キースティックのないシステム)

この機能を使用すると、次回の IPL 用に選択された IPL タイプ、論理キー・モード、および速度を表示します。

1. IPL タイプ (A、B、C、または D) の表示
2. 有効な論理キー・モード (M または N) の表示
3. IPL 速度 (F、S、SE、V=F、または V=S) の表示

次の表は、キースティックがないシステムでの機能 01 の例を示しています。

キースティックがないシステムでの機能 01

機能/データ	処置または説明
0 1 _	「上」または「下」ボタンを使用して、機能 01 にスクロールします。
0 1 _ _ A _ _ M _ _ V = F _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	有効な IPL タイプは A、B、C、および D です。 有効な論理キー・モードは M および N です。 有効な IPL 速度の表示は F、S、SE、V=F、または V=S です。

機能/データ	処置または説明
0 1 _	「上」または「下」ボタンを使用して、コントロール・パネル機能の相互間でスクロールします。

機能 02 (キースティックあり) - IPL タイプと IPL 速度の指定変更を選択する (キースティックのあるシステム)

機能 02 を使用する前に、システムを手動モードにしておく必要があります。IPL タイプの変更は、システムが電源オンでも電源オフでも選択できます。しかし、IPL 速度の指定変更を選択する場合は、システムを電源オフにしなければなりません。

次の表は、電源オンの iSeries サーバーで IPL タイプを選択するのに使用する手順を示しています。

機能 02 により、キースティックのある電源オンのシステムで IPL タイプを選択する

機能/データ	処置または説明
0 2 _	「上」または「下」ボタンを使用して、機能 02 にスクロールします。
0 2 _ _ A < _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	「機能開始」を押して機能 02 を開始します。現行の IPL タイプにはポインターが付いて表示されます。
0 2 _ _ B < _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	「上」または「下」ボタンを使用して、IPL タイプ相互間でスクロールします。
0 2 _	「機能開始」を押して、IPL タイプを選択し、機能 02 を終了します。
0 1 _	「上」または「下」ボタンを使用して、コントロール・パネル機能の相互間でスクロールします。

次の表は、電源オフの iSeries 400[®] システムで IPL タイプと IPL 速度を選択するのに使用する手順を示しています。

機能 02 により、キースティックのある電源オフのシステムで IPL タイプと IPL 速度を選択する

機能/データ	処置または説明
0 2 _	「上」または「下」ボタンを使用して、機能 02 にスクロールします。
0 2 _ _ A < _ _ _ _ _ V _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	「機能開始」を押して機能 02 を開始します。 <ul style="list-style-type: none"> • 現行の IPL タイプにはポインターが付いて表示されます。 • 現行の IPL 速度が表示されます。
0 2 _ _ B < _ _ _ _ _ V _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	「上」または「下」ボタンを使用して、IPL タイプおよび速度の相互間でスクロールします。
0 2 _ _ B _ _ _ _ _ V _ _ < _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	「機能開始」を押して、IPL タイプを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 現行の IPL タイプが表示されます。 • 現行の IPL 速度にはポインターが付いて表示されます。
0 2 _ _ B _ _ _ _ _ S _ _ < _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	「上」または「下」ボタンを使用して、IPL 速度の相互間でスクロールします。

機能/データ	処置または説明
0 2 _	「機能開始」を押して、IPL 速度を選択し、機能 02 を終了します。
0 1 _	「上」または「下」ボタンを使用して、コントロール・パネル機能の相互間でスクロールします。

機能 02 (キースティックなし) - IPL タイプ、IPL 速度の指定変更、および論理キー・モードを選択する (キースティックのないシステム)

通常モードか手動モードのいずれかで、機能 02 を使用することができます。システムが電源オンまたは電源オフのどちらでも、この機能によって IPL タイプと論理キー・モードを選択することができます。IPL 速度の指定変更を選択する場合は、システムを電源オフにしなければなりません。

電源オンのシステム

キースティックのない電源オンのシステムでは、機能 02 を使用して、IPL モードと論理キー・モードを選択します。次の表は、キースティックのない電源オンのシステムで、機能 02 により IPL タイプと論理キー・モードを選択する手順の例を示しています。

機能 02 により、キースティックのない電源オンのシステムで IPL タイプと論理キー・モードを選択する

機能/データ	処置または説明
0 2 _	「上」または「下」ボタンを使用して、機能 02 にスクロールします。
0 2 _ _ A < _ M _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	「機能開始」を押して機能 02 を開始します。 <ul style="list-style-type: none"> • 現行の IPL タイプにはポインターが付いて表示されます。 • 現行の論理キー・モードが表示されます。
0 2 _ _ B < _ M _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	「上」または「下」ボタンを使用して、IPL タイプ相互間でスクロールします。
0 2 _ _ B _ _ M < _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	「機能開始」を押して、IPL タイプを選択します。
0 2 _ _ B _ _ N < _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	「上」または「下」ボタンを使用して、論理キー・モードの相互間でスクロールします。
0 2 _	「機能開始」を押して、論理キー・モードを選択し、機能 02 を終了します。
0 1 _	「上」または「下」ボタンを使用して、コントロール・パネル機能の相互間でスクロールします。

電源オフのシステム

キースティックのない電源オフのシステムでは、機能 02 を使用して、IPL タイプ、論理キー・モード、および IPL 速度標識を選択します。次の表は、キースティックのない電源オフのシステムで、機能 02 により IPL タイプ、論理キー・モード、および IPL 速度を選択する手順の例を示しています。

機能 02 により、キースティックのない電源オフのシステムで、IPL タイプ、論理キー・モード、および IPL 速度を選択する

機能/データ	処置または説明
0 2 _	「上」または「下」ボタンを使用して、機能 02 にスクロールします。
0 2 _ _ A < _ M _ _ _ _ V _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	「機能開始」を押して機能 02 を開始します。 <ul style="list-style-type: none"> • 現行の IPL タイプにはポインターが付いて表示されます。 • 現行の論理キー・モードが表示されます。 • 現行の IPL 速度が表示されます。
0 2 _ _ B < _ M _ _ _ _ V _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	「上」または「下」ボタンを使用して、IPL タイプ相互間でスクロールします。
0 2 _ _ B _ _ M < _ _ _ V _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	「機能開始」を押して、IPL タイプを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 現行の IPL タイプが表示されます。 • 現行の論理キー・モードにはポインターが付いて表示されます。 • 現行の IPL 速度が表示されます。
0 2 _ _ B _ _ N < _ _ _ V _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	「上」または「下」ボタンを使用して、論理キー・モードの相互間でスクロールします。
0 2 _ _ B _ _ N _ _ _ _ V _ < _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	「機能開始」を押して、論理キー・モードを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 現行の IPL タイプが表示されます。 • 現行の論理キー・モードが表示されます。 • 現行の IPL 速度にはポインターが付いて表示されます。
0 2 _ _ B _ _ N _ _ _ _ S _ < _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	「上」または「下」ボタンを使用して、IPL 速度の相互間でスクロールします。
0 2 _	「機能開始」を押して、IPL 速度を選択し、機能 02 を終了します。
0 1 _	「上」または「下」ボタンを使用して、コントロール・パネル機能の相互間でスクロールします。

機能 03 - IPL の開始

機能 03 は、キー・モードが「手動」で、システム電源がオンの場合にのみ使用可能になります。

この機能は、「機能開始」ボタンを押したときに、指定された IPL タイプの IPL を開始します。システムはすべてのライセンス内部コードをロードします。

重要: システムは IPL の前にシステムのシャットダウンを実行しません。この機能を使用すると、データが失われることがあります。

機能 04 - ランプ・テスト

この機能は、コントロール・パネルの標識が切れていないかどうか、また、コントロール・パネルの「機能/データ」表示パネルに表示されている文字が有効であるかどうかを示します。このテストをアクティブにすると、コントロール・パネルのすべてのライトおよび標識が明滅します。

システム・コントロール・パネルでのランプ・テストは、別のコントロール・パネル機能または電源の手順を実行するまで続行されます。拡張装置のコントロール・パネルのランプ・テストは 25 秒間アクティブになり、明滅はしません。

以下の手順に従って、システム・コントロール・パネル上のライトが正常に作動することを確認します。こうしたステップを完了できない場合には、サービス提供元に連絡してください。

1. システムの電源をオンにします。
2. コントロール・パネルの「上 (^)」または「下 (V)」ボタンを押して、機能 04 を表示します。

コントロール・パネルの「機能開始」を押します。

3. システム・コントロール・パネルのすべてのライトと標識が明滅していますか？

はい	次のステップに進みます。
いいえ	コントロール・パネル、またはコントロール・パネル機能を含む交換可能装置 (システム装置バックプレーン (MB1) またはタワー・カード (CB1)) を交換する必要があります。サービス提供元に連絡してください。

4. 拡張装置のコントロール・パネルのライトはすべてオンになりますか？

はい	終了です。
いいえ	拡張装置のコントロール・パネルを交換してください。

システム・コントロール・パネルのライトは正常に作動しています。

機能 05 - SPCN SRC

機能 05 は、電源障害の情報を表示します。ディスク装置の並行保守手順が行われている間に、情報として参照コードを表示します。この機能のフォーマットは次のとおりです。

SPCN SRC のフォーマット

フォーマット
13, 17
機能 IOP SRC

05	1RRU rrrr
----	-----------

RR = 故障したユニットがインストールされているフレーム番号
U = 故障したユニットの接続先の SPCN ポート
rrrr = ユニット参照コード (URC)

RBAFH500-0

機能 07

機能 07 は、許可された IBM サービス技術員による保守の際にのみ使用されます。

機能 08 - 高速電源オフ

機能 08 は、キー・モードが手動モードで、システム電源がオンの場合にのみ使用可能になります。

この機能は、システムが中断状態にあって電源遮断を実行できない場合に使用します。

最初に機能 08 を選択して「機能開始」を押すと、システムはアテンション SRC の 11 A1xx 8008 を表示します。この SRC はユーザーが機能 08 を選択したことを示します。2 度目に機能 08 を選択して「機能開始」を押すと、電源オフの要求が確定します。高速電源オフを実行する場合には、基本システム操作に関するトピックの『システムを停止する』を参照してください。

重要: IPL の前にシステムのシャットダウンは実行されません。この機能を使用すると、データが失われることがあります。

重要: 最後に行われた IPL でシステム・パスワードを変更した場合、高速電源オフを実行すると、新規パスワード情報が失われることがあります。

機能 09 から 10 - 予約済み

これらの機能は将来のコントロール・パネル機能のために予約済みです。

機能 11 から 19 - システム参照コード (SRC)

機能 11 から 19 (使用可能な場合) は、SRC のワードを表します。

エラー報告のために SRC 情報を記録して、サービス提供元に連絡することが必要です。

機能 20 - システム・タイプ、モデル、フィーチャー・コード、ハードウェア・レベル、および IPL パス記述

この機能は、マシン・タイプ、モデル、プロセッサ・フィーチャー・コード、ハードウェア・レベル、および IPL パス記述を、以下のフォーマットで表示します。

```
t m m m c c c c _ _ _ _ _ _ _ _
h h h h _ _ _ _ i i i i i i i i
```

t の値はマシン・タイプを示します。

1	9401
2	9402
4	9404
6	9406

m の値はモデルを示します。

mmm	型式番号 (例、820)
-----	--------------

c の値はシステム・プロセッサのフィーチャー・コードを示します。

cccc	プロセッサのフィーチャー・コード (例、23A4)
------	---------------------------

hhhh の値はシステム・プロセッサのハードウェア・レベルを示します。

hhhh	プロセッサのハードウェア・レベル (例、1025)
------	---------------------------

iiiiiii の値は、システム電源オンまたは再始動パスの記述を示します。

iiiiiii	再始動パス記述 (たとえば、00000001 は、コントロール・パネル上の白いボタンを使ってシステムが電源オンされたことを示します)。
---------	---

SRC とともに、この情報も記録してください。

機能 21 - DST を使用可能にする

この機能は、システム・コンソール・ディスプレイで DST を使用可能にします。「専用保守ツール (DST) の使用 (Use Dedicated Service Tool (DST))」画面が、主コンソールまたは代替コンソールに表示されません。

DST を終了してオペレーティング・システムに戻るには、「専用保守ツール (DST) の使用 (Use Dedicated Service Tool (DST))」画面の「オペレーティング・システム表示の再開」オプションを選択します。

機能 22 - 主記憶域のダンプ

この機能は、主記憶域およびプロセッサのデータをディスクにダンプします。

注: 機能 22 を押す前に、機能 34 が使用可能かどうかを判別してください (使用可能な場合、機能 34 を選択すると 00 がパネルに表示されます)。使用可能な場合は、システムは主記憶域のダンプ IPL を実行しようとしています。機能 34 を使用すると、元のダンプが失われないようにして、IPL が再び試行されます。機能 34 が使用可能でない場合 (機能 34 を選択すると >FF がパネルに表示されます)、戻って機能 22 を開始してください。

最初に機能 22 を選択して「機能開始」を押すと、システムはアテンション SRC の 11 A1xx 3022 を表示します。これはユーザーが機能 22 を選択したことを示します。主記憶域およびシステム・プロセッサのデータをディスクにダンプするには、機能 22 をもう一度選択し、「機能開始」を押します。

この機能は、主記憶域のダンプが必要な場合のみに使用してください。たとえば、中断 (システム・ハング) 状態の場合またはオペレーティング・システムの障害後などです。

重要: 主記憶域ダンプの前にシステムのシャットダウンは実行されません。この機能を使用すると、データが失われることがあります。

機能 25 および 26 - サービス・スイッチ 1 および 2

機能 25 では、サービス技術員スイッチ 1 をセットします。機能 25 は、サービス機能範囲 (50 から 99) を設定するのに必要な最初のステップです。

機能 26 では、サービス技術員スイッチ 2 をセットします。機能 26 は、サービス機能範囲 (50 から 99) を設定するのに必要な 2 番目のステップです。

機能 33 - SPCN アドレッシングの再オーダー

この機能はラック・アドレスを正しい順序に並べ替えて、システム電源制御コントロール (SPCN) におけるそれぞれの位置に対応するようにします。システムにラックを追加したり、ラックを取り外した場合に、この機能を使用してください。

機能 34 - MSD IPL の再試行

機能 34 は主記憶域ダンプ IPL 専用です。これを使用するのは、(MSD) IPL 中にシステムが停止し、元のダンプ情報を失わずに IPL を再び試行しようとする場合です。

拡張コントロール・パネル機能

手動モードを選択し、機能 25 (サービス・スイッチ 1)、次いで機能 26 (サービス・スイッチ 2) を入力すると、サービス機能 50 から 70 がシステムで使用可能になります。機能 51 および機能 57 から 64 では、サブ機能を使用します。

注:

1. 表示すべきデータが機能にない場合は、FF が表示されます。
2. 50 から 70 などのいくつかの上位の機能は、リモート・コントロール・パネルおよび仮想コントロール・パネルを使用している場合、接続によってはサポートされません。
3. リモート・コントロール・パネルおよび仮想コントロール・パネルでサポートされていない機能の場合、FF が表示されます。

機能 50 から 70 を使用可能にするには、次のようにします。

1. 機能 25 を選択し、「機能開始」(Enter) を押します。表示パネルに 25 00 と表示されます。
2. 「上」ボタンを使用して機能 26 を選択し、「機能開始」を押します。表示パネルに短時間 26 00 と表示されます。通常はその後、上位の機能がアクティブになると 01 B と表示されます。

これで、機能 50 から 70 が使用可能になります。

機能 25 (サービス・スイッチ 1) または機能 26 (サービス・スイッチ 2) のいずれかを選択して入力することにより、サービス機能を使用不可にすることができます。

機能 50 から 70 を使用不可にするには、機能 25 を選択して「機能開始」を押します。これで、機能 50 から 70 は使用不可になります。

サブ機能の使用

サブ機能を使って作業するには、次のようにします。

1. 「上」または「下」ボタンを使用し、該当する機能を選択して「機能開始」ボタンを押します。機能番号にアスタリスク (**) が付いて表示されます (例、57**)。2 つのアスタリスクはサブ機能が使用可能であることを示しています。
2. 「選択」ボタン (上) を押してください。最初のサブ機能番号が表示されます (例、5700)。
3. サブ機能番号が表示されたら、「機能開始」ボタンを押します。システムはサブ機能番号に関連したデータを表示します。
4. 「選択」ボタン (上) を押してください。次のサブ機能番号が表示されます (例、5701)。
5. サブ機能番号が表示されたら、「機能開始」ボタンを押します。システムは新しいサブ機能番号に関連したデータを表示します。
6. サブ機能に関連したすべてのデータを収集するまで、これらのステップを繰り返します。
7. 「上」または「下」ボタンを使って、アスタリスク付きの機能表示に戻ります (例、57**)。
8. 「機能開始」ボタンを押してサブ機能を終了します。

機能 50 - システム・プロセッサの停止

この機能はシステム・プロセッサを停止します。

重要: この機能を使用すると、システムは異常終了することがあります。上位のサポート担当者から指示された場合に限ってこの機能を使用してください。

機能 51 - システム・プロセッサの状況

この機能は以下の値を表示します。

- 次の命令アドレス (NIA)
- 現行のタスク・ディスパッチング・エレメント (TDE) アドレス

データは一度に 8 桁ずつ表示されます。00 から 0F までの各ワードのデータを表示するため、サブ機能番号を選択して入力してください。

次の表は、NIA および TDE 情報を示すサブ機能データ表示の例です。

サブ機能データ表示の例

機能	サブ機能	データ表示
51	**	サブ機能モードに入った
51	00, 01	NIA (8 バイト)
51	02, 03	現行 TDE (8 バイト)

機能 52 - システム・プロセッサの開始

この機能はシステム・プロセッサを開始します (停止していた場合)。

機能 53- GARD の繰り返し

この機能は以下の値を表示します。

- メモリーのクリア、プロセッサ、L3 GARD の繰り返し
- メモリーの使用可能、プロセッサ、L3 GARD の繰り返し
- メモリーの使用不可、プロセッサ、L3 GARD の繰り返し
- 使用可能/使用不可状況の表示

この機能は、障害発生後の IPL の際に、断続的に故障しているプロセッサを永続的に構成解除します。IPL 診断が障害を検出し自動的に構成解除することができない場合に、この機能が実行されます。故障したプロセッサは取り替えるか、プロセッサを再使用する前に GARD の繰り返し機能をクリアする必要があります。

重要: この機能は、電源障害の際に永続的に構成解除するのに役立ちます。上位のサポート担当者から指示された場合に限ってこの機能を使用してください。

次の表は、GARD の繰り返し情報を示すサブ機能データ表示の例です。

サブ機能データ表示の例

機能	サブ機能	データ表示
53	**	サブ機能モードに入った
53	00	メモリーのクリア、プロセッサ、L3 GARD の繰り返し

機能	サブ機能	データ表示
53	01	メモリの使用可能、プロセッサ、L3 GARD の繰り返し
53	02	メモリの使用不可、プロセッサ、L3 GARD の繰り返し
53	03	使用可能/使用不可状況の表示 (E= 使用可能、D= 使用不可)

低レベルデバッグ・パネル機能 57 から 70

これらの機能は、手動モードを選択して、機能 25 と 26 を選択することにより、使用可能になります。

すべての低レベルデバッグ・パネル機能と、それぞれの説明を以下にリストします。

機能 57 - サービス・プロセッサ診断データ域アドレスの表示 これらのアドレスは、機能 62 でデバッグ・データを表示するのに使用されます。

機能 58 - 機能 62 表示用の基底アドレスの 1 番目の文字の設定

機能 59 - 機能 62 表示用の基本アドレスの 2 番目の文字の設定

機能 60 - 機能 62 表示用の基本アドレスの 3 番目の文字の設定

機能 61 - 機能 62 表示用の基本アドレスの 4 番目の文字の設定

機能 62 - サービス・プロセッサ記憶域の表示 この機能は、機能 58 から 61 で設定されたアドレスから始めて、サービス・プロセッサ記憶域を表示します。

機能 63 - システム状況 SRC トレース システム状況 SRC トレースは、最後の 25 の状況 SRC のコピーです (通常は IPL 手順やパワーオフ手順に関連したものです)。16 進数 00 から 18 のサブ機能を入力して、状況 SRC を順次確認することができます。最新の SRC (最後の状況 SRC) は、サブ機能 (16 進数) 18 に現れます。

機能 64 - 診断状況 SRC トレース 診断状況 SRC トレースは、最後の 25 の状況 SRC のコピーです (通常は、問題分析のサービス・プロセッサ機能や主記憶域ダンプに関連したものです)。16 進数 00 から 18 のサブ機能を入力して、状況 SRC を順次確認することができます。最新の SRC (最後の状況 SRC) はサブ機能 (16 進数) 18 で確認でき、この SRC の拡張 SRC ワードはサブ機能 19 から 1A にあります。

機能 65 - リモート・サービスの非活動化 この機能を使用して、リモート・サービス・セッションまたはオペレーション・コンソールを非活動化します。この機能は、リモート・サービス・セッションまたはオペレーション・コンソールに使用されていた通信ポートを解放します。

機能 66 - リモート・サービスの活動化 この機能を使用して、リモート・サービス・セッションまたはオペレーション・コンソールを活動化します。この機能は、リモート・サービス・セッションまたはオペレーション・コンソールに使用される通信ポートを活動化します。

機能 67 - ディスク装置 IOP のリセット/再ロード 機能 67 はすべてのシステム・タイプに使用できるわけではありません。この機能を使って、IOP ダンプおよびディスク装置 IOP のリセット/再ロードを開始します。この機能が使用可能になるのは、特定の SRC がコントロール・パネルに表示され、関連した IOP がリセット/再ロード機能をサポートしている場合だけです。

機能 68 - ディスク装置 IOP/IOA 電源ドメインの電源オフ 機能 68 は、ディスク装置アテンション SRC などの、特定のディスク装置システム参照コード (SRC) によってのみ使用可能になります。

機能 69 - ディスク装置 IOP/IOA 電源ドメインの電源オン 機能 69 は、電源ドメインが電源オフの場合に使用可能です。

機能 70 - サービス・プロセッサ制御記憶域のダンプ この機能は、サービス・プロセッサ制御記憶域の内容を、エラー・ログからの使用の可能性に備えて不揮発性ストレージに保管します。

リモート・コントロール・パネル API を使用する

これらの API を使用して、リモートでコントロール・パネルにアクセスできるプログラムを作成します。作成したプログラムは、これらの API を使用して多くのコマンドおよび QUERY にアクセスすることができます。

オペレーション・コンソールのリモート・コントロール・パネル機能では、システム管理者がプログラムを介してサーバーを制御するために使用できる API (アプリケーション・プログラム・インターフェース) のセットを提供しています。この API を使用すると、カスタム・プログラムはシステム・コントロール・パネルとインターフェースで接続され、共通する多くのシステム・コントロール・パネル機能を実行することができます。

これらの API は、シリアル・コンソール・ケーブルで直接接続されたリモート・コントロール・パネルを使用している場合にのみ使用できます。仮想コントロール・パネルまたは、並列ケーブルで接続された、リモート・コントロール・パネルでは、これらの API を使用することはできません。

リモート・コントロール・パネル API へのインターフェースは、標準の TCP/IP ソケット接続を介して確立されます。ソケット接続は、Windows® プラットフォーム上でソケットをサポートするプログラム言語 (Java™、C/C++、Visual Basic など) でインプリメントできます。

リモート・コントロール・パネル API を使用するには、以下のステップに従う必要があります。

1. リモート・コントロール・パネル機能を指定してオペレーション・コンソールを開始します。
2. カスタム・プログラムで、同じ PC 上のポート 2150 へのソケット接続を開きます。
3. この後で説明されるコマンドのセットの中からサポートされるコマンドを送信します。
4. 同じソケット接続上に戻されるバイト・ストリームを受信します。
5. 必要に応じて、同じソケット接続でステップ 3 と 4 を繰り返します。
6. 終了後、ソケット接続を閉じます。

プログラムはサーバーから戻されるバイト・ストリームを解釈できなければなりません。戻されるバイト・ストリームは、すべてのコマンドに共通する事前定義されたフォーマットで構成されます。バイト・ストリームの長さは少なくとも 4 バイトです。追加バイトを戻すコマンドもあります。

最初の 2 バイト (0 と 1) はコマンド状況 (通常は、成功か失敗) を戻します。次の 2 バイト (2 と 3) は 16 ビットの数値 N になっており、最初の 4 バイトの後に続く追加のバイト数を表します。N がゼロ以外の場合、4 から 4 + N バイトの追加情報があります。この情報はコマンドに関連する追加データ (TRUE や FALSE など) です。

注: 送信されるコマンドが、この後で定義されるコマンド・ストリングのどれでもない場合、戻り値のバイト 0 と 1 の戻りコードは 32 (0x20) になります。これは、コマンドがサポートされていないことを意味します。

プログラムは、この後で説明される API を使用して、以下のコントロール・パネル機能を実行できます。

システム電源およびテスト API

以下の API では、システムの電源をオンおよびオフにする方法、パネル・ランプ・テストを実行およびクリアする方法が説明されています。

システムの電源をオンにする (PowerOn)

プログラムにより、システムの電源をオンにするには、API **PowerOn** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用する際の制約事項はありません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 = コマンド正常終了 1 = コマンド失敗	16 ビットの追加データ長 N = 0	該当せず

パネル・ランプ・テストを実行する (DoLampTest)

プログラムにより、パネル・ランプ・テストを実行するには、API **DoLampTest** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用する際の制約事項はありません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗	16 ビットの追加データ長 N = 0	該当せず

パネル・ランプ・テストをクリアする (ClearLampTest)

プログラムにより、パネル・ランプ・テストの結果をクリアするには、API **ClearLampTest** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用する際の制約事項はありません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗	16 ビットの追加データ長 N = 0	該当せず

システムの電源をオフにする (PowerOff)

システムの電源をオフにするには、API **PowerOff** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用するには、電子キースティック・スロットにキースティックを挿入する必要があります (キースティックのあるシステムの場合)。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗 2 => キーが挿入されていない	16 ビットの追加データ長 N = 0	該当せず

IPL に関連した API

以下の API では、IPL の開始方法とともに、IPL のモード、タイプ、および速度の設定方法が説明されています。

IPL モードを手動に設定する (SetIPLModeManual)

プログラムによりシステム IPL モードを手動に設定するには、API **SetIPLModeManual** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用するには、次のようにします。

- このコマンドを使用するには、キーを挿入する必要があります (キースティックのあるシステムの場合)。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗 2 => キーが挿入されていない	16 ビットの追加データ長 N = 0	該当せず

IPL モードを通常に設定する (SetIPLModeNormal)

プログラムによりシステム IPL モードを通常に設定するには、API **SetIPLModeNormal** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用するには、次のようにします。

- このコマンドを使用するには、キーを挿入する必要があります (キースティックのあるシステムの場合)。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗 2 => キーが挿入されていない	16 ビットの追加データ長 N = 0	該当せず

IPL モードを自動に設定する (SetIPLModeAuto)

プログラムによりシステム IPL モードを自動に設定するには、API **SetIPLModeAuto** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用するには、次のようにします。

- このコマンドを使用するには、キーを挿入する必要があります (キースティックのあるシステムの場合)。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗 2 => キーが挿入されていない	16 ビットの追加データ長 N = 0	該当せず

IPL モードを保護に設定する (SetIPLModeSecure)

プログラムによりシステム IPL モードを保護に設定するには、API **SetIPLModeSecure** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用するには、次のようにします。

- このコマンドを使用するには、キーを挿入する必要があります (キースティックのあるシステムの場合)。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗 2 => キーが挿入されていない	16 ビットの追加データ長 N = 0	該当せず

IPL タイプを A に設定する (SetIPLTypeA)

プログラムによりシステム IPL タイプを A に設定するには、API **SetIPLTypeA** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用するには、次のようにします。

- このコマンドを使用するには、キーを挿入する必要があります (キースティックのあるシステムの場合)。
- システムが手動モードになっていなければなりません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗 2 => キーが挿入されていない 4 => 手動モードでない	16 ビットの追加データ長 N = 0	該当せず

IPL タイプを B に設定する (SetIPLTypeB)

プログラムによりシステム IPL タイプを B に設定するには、API **SetIPLTypeB** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用するには、次のようにします。

- このコマンドを使用するには、キーを挿入する必要があります (キースティックのあるシステムの場合)。
- システムが手動モードになっていなければなりません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗 2 => キーが挿入されていない 4 => 手動モードでない	16 ビットの追加データ長 N = 0	該当せず

IPL タイプを C に設定する (SetIPLTypeC)

プログラムによりシステム IPL タイプを C に設定するには、API **SetIPLTypeC** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用するには、次のようにします。

- このコマンドを使用するには、キーを挿入する必要があります (キースティックのあるシステムの場合)。
- システムが手動モードになっていなければなりません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗 2 => キーが挿入されていない 4 => 手動モードでない	16 ビットの追加データ長 N = 0	該当せず

IPL タイプを D に設定する (SetIPLTypeD)

プログラムによりシステム IPL タイプを D に設定するには、API **SetIPLTypeD** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用するには、次のようにします。

- このコマンドを使用するには、キーを挿入する必要があります (キースティックのあるシステムの場合)。
- システムが手動モードになっていなければなりません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗 2 => キーが挿入されていない 4 => 手動モードでない	16 ビットの追加データ長 N = 0	該当せず

IPL を開始する (StartIPL)

プログラムによりシステム IPL を開始するには、API **StartIPL** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用するには、次のようにします。

- このコマンドを使用するには、キーを挿入する必要があります (キースティックのあるシステムの場合)。
- システムが手動モードになっていなければなりません。
- システムが電源オンになっていなければなりません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗 2 => キーが挿入されていない 4 => 手動モードでない 16 => システム電源オフ	16 ビットの追加データ長 N = 0	該当せず

IPL 速度を高速に設定する (SetIPLSpeedFast)

プログラムによりシステム IPL 速度を高速に設定するには、API **SetIPLSpeedFast** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用するには、次のようにします。

- このコマンドを使用するには、キーを挿入する必要があります (キースティックのあるシステムの場合)。
- システムが手動モードになっていなければなりません。
- システムの電源をオフにしなければなりません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗 2 => キーが挿入されていない 4 => 手動モードでない 8 => システム電源オン	16 ビットの追加データ長 N = 0	該当せず

IPL 速度を低速に設定する (SetIPLSpeedSlow)

プログラムによりシステム IPL 速度を低速に設定するには、API **SetIPLSpeedSlow** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用するには、次のようにします。

- このコマンドを使用するには、キーを挿入する必要があります (キースティックのあるシステムの場合)。
- システムが手動モードになっていなければなりません。
- システムの電源をオフにしなければなりません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗 2 => キーが挿入されていない 4 => 手動モードでない 8 => システム電源オン	16 ビットの追加データ長 N = 0	該当せず

IPL 速度をシステム・デフォルトに設定する (SetIPLSpeedDefault)

プログラムによりシステム IPL 速度をデフォルト値に設定するには、API **SetIPLSpeedDefault** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用するには、次のようにします。

- このコマンドを使用するには、キーを挿入する必要があります (キースティックのあるシステムの場合)。
- システムが手動モードになっていなければなりません。
- システムの電源をオフにしなければなりません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗 2 => キーが挿入されていない 4 => 手動モードでない 8 => システム電源オン	16 ビットの追加データ長 N = 0	該当せず

その他のシステム機能 API

以下の API では、専用保守ツールおよび主記憶域ダンプの開始方法、継続的電源供給を使用不可にする方法が説明されています。

主コンソールまたは代替コンソールで専用保守ツール (DST) を開始する (StartDST)

プログラムにより、主コンソールまたは代替コンソールで専用保守ツール (DST) を開始することができます。これを行うには、API **StartDST** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用するには、次のようにします。

- このコマンドを使用するには、キーを挿入する必要があります (キースティックのあるシステムの場合)。
- システムが手動モードになっていなければなりません。
- システムが電源オンになっていなければなりません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗 2 => キーが挿入されていない 4 => 手動モードでない 16 => システム電源オフ	16 ビットの追加データ長 N = 0	該当せず

主記憶域ダンプを開始する (StartMSD)

プログラムにより主記憶域ダンプを開始するには、API **StartMSD** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用するには、次のようにします。

- このコマンドを使用するには、キーを挿入する必要があります (キースティックのあるシステムの場合)。
- システムが手動モードになっていなければなりません。
- システムが電源オンになっていなければなりません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗 2 => キーが挿入されていない 4 => 手動モードでない 16 => システム電源オフ	16 ビットの追加データ長 N = 0	該当せず

CPM (継続的電源供給) を使用不可にする (DisableCPM)

プログラムにより、システムで CPM (継続的電源供給) を使用不可にするには、API **DisableCPM** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用するには、次のようにします。

- このコマンドを使用するには、キーを挿入する必要があります (キースティックのあるシステムの場合)。
- システムが手動モードになっていなければなりません。
- システムの電源をオフにしなければなりません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗 2 => キーが挿入されていない 4 => 手動モードでない 8 => システム電源オン	16 ビットの追加データ長 N = 0	該当せず

システム状況を尋ねる API

以下の API はシステム状況について説明します。

CPM はありますか? (GetCPMPresent)

プログラムにより、システムに継続的電源供給 (CPM) があるかどうかを調べることができます。これを行うには、API **GetCPMPresent** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用する際の制約事項はありません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗	16 ビットの追加データ長 N N = ASCII 戻り値のサイズ (ストリングの終わりの NULL はカウントしない)	True または False

CPM は使用可能ですか? (GetCPMEnabled)

プログラムにより、システムで CPM (継続的電源供給) が使用可能かどうかを調べることができます。これを行うには、API **GetCPMEnabled** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用する際の制約事項はありません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗	16 ビットの追加データ長 N N = ASCII 戻り値のサイズ (ストリングの終わりの NULL はカウントしない)	True または False

キーは挿入されていますか? (GetKeyInserted)

プログラムにより、システムにキースティックが挿入されているかどうかを調べるには、API **GetKeyInserted** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用する際の制約事項はありません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗	16 ビットの追加データ長 N N = ASCII 戻り値のサイズ (ストリングの終わりの NULL はカウントしない)	True または False

電源オンになっていますか? (GetPowerOn)

プログラムにより、システムが電源オンになっているかどうかを調べるには、API **GetPowerOn** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用する際の制約事項はありません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗	16 ビットの追加データ長 N N = ASCII 戻り値のサイズ (ストリングの終わりの NULL はカウントしない)	True または False

アテンション・ライトは点灯していますか? (GetAttentionLight)

プログラムにより、アテンション・ライトがオンになっているかどうかを調べるには、API **GetAttentionLight** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用する際の制約事項はありません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗	16 ビットの追加データ長 N N = ASCII 戻り値のサイズ (ストリングの終わりの NULL はカウントしない)	True または False

SPCN はありますか? (GetSPCNPresent)

プログラムにより、システムにシステム電源制御ネットワーク (SPCN) があるかどうかを調べることができます。これを行うには、API `GetSPCNPresent` を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用する際の制約事項はありません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗	16 ビットの追加データ長 N N = ASCII 戻り値のサイズ (ストリングの終わりの NULL はカウントしない)	True または False

IPL モードを入手する (GetIPLMode)

プログラムによりシステム IPL モードを調べるには、API `GetIPLMode` を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用する際の制約事項はありません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗	16 ビットの追加データ長 N N = ASCII 戻り値のサイズ (ストリングの終わりの NULL はカウントしない)	手動、通常、自動、保護のいずれか

IPL タイプを入手する (GetIPLType)

プログラムによりシステム IPL タイプを調べるには、API `GetIPLType` を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用する際の制約事項はありません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗	16 ビットの追加データ長 N N = ASCII 戻り値のサイズ (ストリングの終わりの NULL はカウントしない)	A、B、C、D のいずれか。

IPL 速度を入手する (GetIPLSpeed)

プログラムによりシステム IPL 速度を調べるには、API **GetIPLSpeed** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用する際の制約事項はありません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗	16 ビットの追加データ長 N N = ASCII 戻り値のサイズ (ストリングの終わりの NULL はカウントしない)	低速、高速、V=低速、V=高速のいずれか。 注: 応答に "V=" が付いていると、デフォルトの IPL 速度であることを示します。

タイプおよび型式情報を入手する (GetType&Model)

プログラムによりシステムのタイプおよび型式番号を調べるには、API **GetType&Model** を使用します (大文字・小文字は表示されているとおりに使用してください)。

このコマンドを使用する際の制約事項はありません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗	16 ビットの追加データ長 N N = ASCII 戻り値のサイズ (ストリングの終わりの NULL はカウントしない)	ZZZZZZZZ (タイプおよび型式情報を含む ASCII ストリング)

SPCN SRC を入手する (GetSPCNSRC)

プログラムがシステム電源制御ネットワーク (SPCN) の SRC を戻すようにするには (使用可能な場合)、API **GetSPCNSRC** を使用します (この通りの大文字小文字を使用してください)。

このコマンドを使用する際の制約事項はありません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗	16 ビットの追加データ長 N N = 16 進戻り値のサイズ (ストリングの終わりの NULL はカウントしない)	0x'XXXXXXXX' 注: 16 進戻りデータの 4 バイトが SRC として使用されます。

SRC 1 から 9 をすべて入手する (GetSRCs)

プログラムがすべての SRC をワード 1 からワード 9 で戻すようにするには (使用可能な場合)、API **GetSRCs** を使用します (この通りの大文字小文字を使用してください)。

注: V4R4 以前のシステムでは、ワード 1 から 9 は機能 11 から 19 に該当します。

このコマンドを使用する際の制約事項はありません。

この API は次の情報を戻します。

バイト 0 および 1	バイト 2 および 3	バイト 4 から 4+N
16 ビットの戻りコード 0 => コマンド正常終了 1 => コマンド失敗	16 ビットの追加データ長 N N = 16 進戻り値のサイズ (ストリングの終わりの NULL はカウントしない)	0x'XXXXXXXX' 注: 16 進戻りデータの 4 バイトが SRC として使用されます。

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとしします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department YBWA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

- 1 本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム
- 1 契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項
- 1 に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

本書「Control Panel」には、プログラムを作成するユーザーが IBM i5/OS のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

- | AIX
- | AIX 5L
- | e(ロゴ)server
- | eServer
- | i5/OS
- | IBM
- | IBM (ロゴ)
- | iSeries
- | pSeries
- | xSeries
- | zSeries

| Intel, Intel Inside (ロゴ)、および Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft, Windows, Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

| Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、第三者の権利の不侵害の保証、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。



Printed in Japan